



<VOL225.2026.9>

もりおかクラブ事務所：〒020-0021 盛岡市中央通3-19-22 019-658-8773 盛岡YMCA内
盛岡YMCA HP <http://www.ymcajapan.org/morioka/> 検索エンジンワード「盛岡YMCA」

9月の聖句 マタイ18章3節



「心を入れ替えて子どものようにならなければ、決して天の国に入ることはできない。」

国際会長 ヨハン・ヴィルヘルム
・エルドヴィク
アジア太平洋地域会長 ラチャン・マニカーン
東日本区理事 山下 真
北東部長 三田 庸平(もりおか)
もりおかクラブ会長 長岡 正彦

「主題」

「ブルーミュージックで眠れる巨人を
目覚めさせる」
「アジア太平洋地域をブルーミュージックで
目覚めさせる」
「挑戦なくて進化なし」
「ユースの成長・笑顔を求めて」
「YMCA リーダー達と、共に進もう」

会長 長岡 正彦
副会長 山口 貴伸
書記 濱塚 有史
会計 三田 庸平
副会計 大関 靖二
担当主事 中村 渉(ちゃん)
メネット 井上 優子

2026年10月定例会
日時、場所 10月10日(第2土曜日) 内丸教会
18時~20時
例会費 1,000円
20周年記念誌の会員コラムは

magaoka.marsa@gmail.com まで

会長巻頭挨拶



長岡会長

みなさま、こんにちは。実りの秋が来ました。米はこうべを垂れて刈り取りがどんどん進んでいます。我が家の栗も実を落とし始めました。昨晚今年の茹で栗を賞味しました。美味しい物を食べると、井上さんの事を思い出します。井上さんはもうこの世では食事ができないのですね。代わりに私がいっぱい食べて、命を繋いでいきます。羨ましいでしょう。「亡くなった人は食事ができないから、残った家族、友人は代わりに食べる。」という教で今まで来ました。これはその通りでしょう。のこった家族が子々孫々まで繁栄することが、井上さんの願いであると信じています。会員のみな様も、いっぱい食べて元気に過ごして行きましょう。

9月はもうすぐ終わります。20周年記念例会が近づいています。んな例会になるのか楽しみでもあり、不安でもあります。記念誌

の編集も滞っています。これが一番の悩みの種です。気取らず、自然に書き上げればとは思っていますが、出来上がりの形態が今は見えません。毎月のブリテン同様、尻に火が付けば完成するのでしょうか。頑張るしかない。

9月定例会。

9月19日(土)、アイーナで開催。参加者、長岡、大関、三田、シンディ、濱塚、山口、程海薇、井上優子、加藤、中村、(敬称略)以上10名。ゲスト、津田美紅さん(ハク)、竹知桃花さん(サン)、佐藤瞭さん(タイム)、滝澤里菜さん(ぐら)、土田勇人さん(アポロ)、斉藤舜斗さん(パーシー)、佐々木百望さん(おうりん)、川村日乃香さん(ピノ)、以上8名、全18名で開催されました。

20周年記念例会の連絡事項、北東部フォーラムには三田メン、程ウィメンが参加することが告げられました。卓話は、ユースボランティア・リーダーズフォーラム報告会。パーシー、おうりん、ピノの3名でした。この後特集しています。

井上優子メネットが参加してくださり、井上修三メンが亡くなった後、クラブ内の立場をお聞きました。優子さんの希望で、そのままメネットという立ち位置でクラブに参加してくれます。

もりおかクラブの中には井上修三メンをよく知らないメンバーがいましたので、クラブ設立準備会から、発足までの精力的な活動やワイズメンズクラブの人脈でチャーターナイトに集まった多くの方々に驚いたことなど、もりおかクラブの父であることを伝えました。



9月定例会、参加ありがとうございました

第38回ユースボランティア・フォーラム

テーマ「共に生きるとは」、発表者、齊藤舜斗さん(パーシー)、佐々木百望さん(おうりん)、川村日乃香さん(ピノ)の3人です。

テーマである「共生」について、立場が違う4組のゲストスピーカーの講演を聞きながら、答えのない問いに3日間みんなで真剣に向き合ってきました。



この子たちは感受性が高く、頭もいい。頼もしい限り

・国境を越えて共に生きる

ウクライナから避難してきたカミシヤン・ダニールさんや、日本YMCA 同盟の横山由利亜さんのお話が紹介され、ダニールさんは「ウクライナから避難してきた人＝被害者」という1側面だけで見るのではなく、その人のこれまでの背景を知ることが大切だと気づかせてくれました。また、孤立しがちな外国にルーツを持つ子どもたちにとって、安心できる「居場所」と、声をかけてくれる存在がすごく大事だと分かりました。

秋の夜長に、語り合おう

大関メン:続いたお葬式で、写真が素晴らしいと感じました。中原牧師も、井上さんもいい写真でした。私もお気に入りの写真を準備します。私の松園団地は紅葉が始まりました。

井上優子メネット:この場をお借りして、井上修三の葬儀にワイズメン、リーダーの皆さんご協力いただき、ありがとうございました。井上も喜んでいました。

川村日乃香さん(ピノ)さん:社会福祉学部の障がいを持っている子供達の放課後デイサービスに参加して、はじめは緊張しました。YMCA の子供達と違うかなと思いながらの参加でした。おもちゃの蛇を使って遊ぶと思いきり喜んでもらい、いきなり打ち解けました。概念を取っ払うには経験が大切だと思いました。

佐々木百望さん(おうりん):前期の単位はすべて獲得しました。後期の時間割を考えると、Y の活動で自分の将来の仕事を見つけられればと考えております。

障がい乗り越えて共に生きる

群馬YMCAでリーダーをしている、「たじ」と「お味噌」というご夫婦の講演を聴きました。夫の「たじ」さんは、突然の病気で車椅子生活や言語障害になったけれど、奥さんと一緒に登山やキャンプなど色々なことに挑戦し続けています。障がいを特別なものとして特別視するのではなく、「生きづらさや不自由さ」として捉え、障がいがあってもなくてもお互いに補い合いながら楽しく生きる姿が印象的でした。

人と共に生きる

東日本大震災・福島県原子力損害賠償紛争解決会の牧師である、金新亞(キム・シニヤ)先生のお話でした。金先生は、実践神学や多文化共生を専門にされていて、「共に生きるとは、人の顔を描き合い、聴き合い、語り合うことそのものが広がっていくこと」だと教えてくれました。誰しもが持っている痛みのアンテナを張って、相手の痛みに関わり合い、お互いを知ろうとすることが共生の第一歩ですと教えてくれました。

3日間のフォーラムを通して、最初は「共生」や「障害」「国境」といったテーマをすごく大きなもの(世界平和のような規模)として捉えていた3人の出席者、最後には「共生とは遠いところにある特別なものではなく、自分自身の身近な人との関わり合いや、お互いを知ろうとする日々のコミュニケーションの積み重ねそのものだ。」と気づけたと話していました。

(濱塚メン:好きな仕事に就くのではなく、就いた仕事を好きになるといいんだよ。大関さんの受け入りです。)

佐藤瞭さん(タイム):この夏、キャンププログラムに3つ参加しまして。卒業研究がとどこおりました。教授から卒論を舐められないほうがいいと叱責され、少しドキッとしました。

三田メン:知り合いから野菜をもらい、美味しく食べました。僕も野菜を、造ろうと庭に畑を作り、ニンニクを植えました。出来上がりが楽しみです。

中村メン:リーダーの水泳担当者会議がありました。子供達を楽しませるためのアイデアはリーダー出身のブイゲンさんはすぐにいっぱい出ます。終わりのころ、ゴリナが入って来て嬉しい事があって、話したくて来たと。日付が変わるまでお話を続けました。

加藤メン:先ほどの共生について、「熊と共生しましょう」という人がいます。これは無理です。「共存」はできる。秋分の日が近づき、夏野菜は終わります。「ゆうがお」を1本処理し

て料理しました。明日からは「ゆうがお」が主食になります。

濱塚メン: 26年前、盛岡 YMCA が潰れそうなとき、YMCA の仲間も銀行もすべてだめで、井上修三さんに行きました。優子メネットは「しょうがないわねえ」、修三さんは「なんとかなるよ」と言い、具体的な事はなかったのですが、ワイズメンズクラブが助けてくれました。何とか立ち直り、月日が経ちリーダー同士が結婚して子供が出来て、命が良まれました。「しょうがないわねえ」と「なんとかなるよ」が YMCA の原点だと思っております。

斉藤舜斗さん(パーシー): 濱ちゃんの後には話すのは、つらいです。子供達の自然離れがあると聞きましたが、Y の子供達は虫を平気で触れます。僕は駄目です。自然離れって、どこの子だろう。子供達すげえ。

津田美紅さん(ハク): 自然繋がりで、私は宇宙が大好きです。島キャンプの後ペルセウス座流星群を見に花巻に行きました。今は南の空に土星が光っています。見てみてください。

長岡会長: 今年の夏は玄関先のパセリにキアゲハの幼虫が大量発生して、すべての葉と花を食い尽くしました。食べ物が無くなり、動きが悪くなると捕食者の餌食になるようで

す。朝はあんなにいたのに、夕方には痕跡もなくなりました。自然界は恐ろしいですね。

程海薇ウィメン: 出張で京都に行って来ました。講演で、話し方9割と言う本の著者が、鹿児島の知覧で特攻隊員を祀っている神社に遺書が展示されていて。3日後に死ぬと決まっている時に書けるのか、涙が止まらなかったといっていました。生き残りの隊員のビデオも見て最後に日本を良い国にしてくださいと言っていたとのことです。

山口メン: 共生について、社会に出るときに、学生時代に考えて出ると、そうでないのでは、人間の深く考える度合いが違ふと感じました。協調は社会の波が教えてくれます。共生は自分で感じて行ふものなのでしょう。

滝澤里菜さん(ぐら): 盛岡市役所に就職が内定しました。社会人になっても YMCA と関わっていけそうです。社協の自習でいろんな立場の方々のお話を聴いてきました。生まれは選べないけどその後の人生は選べる。今、学んでいることは共生の種まきであると考えました。

土田勇人さん(アポロ): 雫石サマーキャンプの川遊びで寒さを感じました。周りの人たちは平気でした。風邪をひいていました。同じく風邪を引いた子供と隔離生活。寒いときは寒いと言ったほうが良いですね。

「ズイテン盛岡DAON」

もりおかクラブの状況報告

9月の出席率	9名	60%	ゲスト8名	メネット	1名		
メーキャップ	0名			9月切手	10g	累計	255g
9月のにこにこ	0円	累計	0円	富士宮焼きそば	12,000円	累計	0円
9月 石鯨	0円	累計	0円	りんご	0円	累計	0円
9月 献金	0円			ファンド合計	140,000円		

会費の納入をお願いいたします。岩手銀行 本店営業部(店番号 001)普通口座 2391117

もりおかワイズメンズクラブ 代表 長岡 正彦

9月のハッピーバースディ 関係者の皆様、9月の誕生日おめでとうございます。

第9回 盛岡 YMCA チャリティラン開催



9月21日、台風25号からのびる雨雲が空をすっぽり覆い、雨が降り続きます。前日の20日には早々とランニングのプログラムは中止を決定、雨プログラムの実施がきまりました。そんなわけで今年のチャリティランは体育館で雨プログラムの開催でした。

雨を想定したリーダー達の準備は万全。数々のゲームをオリジナルで作っていました。創造力を現実の場面に形作るのは大変な努力が必要だったと思います。真剣に「もしも雨が降ったら」、そんな時でも子供たちをがっかりさせたくない。そんな意識の高さを披露してくれました。体育館に広がったゲームコー

ナー、疑似通貨を持った子供たちは手持ちのお金を増やすべくまじめに、真剣にゲームに取り組みます。子供たちだけではなく、大人のチームも同じゲームに取り組み、疑似通貨の獲得に取り組みました。時間内に手持ちの疑似通貨がどれだけ獲得できるか、多いチームが優勝です。

体育館の廊下には、各出店が並び、参加者の来店をまっています。もりおかワイズメンズクラブは、おなじみ富士宮焼きそばです。雨が降り続く外では調理ができないため朝7時から長岡宅の車で140食を焼き上げて県立大学へ、子供が会計すると100円引きの販売企画で、400円になります。完売でした。粗利は少ないですが、参加者を楽ませるのが雨プログラムの目的です。リーダー達と一緒に励みました。

もりおかクラブのチームは実際にはランニングができないため代走の準備をしていましたが、雨プログラムでは参加できま



す。大関さんは、とても楽しそうに巡回してゲームをこなしていました。

実行委員長の千葉メンも。雨は残念と言いながらも雨プログラムの充実にご満悦。大会の成功を大いに喜んでいました。

それにしても子供たちの盛り上がりは想像を超えていました。心から楽しんでいるように見えます。雨でも最高にエンジョイしていました。

大会実行委員長千葉メン



シンディと大関さん、楽しそう



県大さんさ、笛で踊ります

井上修三さん告別式

9月13日、内丸教会で井上さんの告別式が行われました。



数々の盛花に囲まれ、中央は中原牧師、井上さんの遺影があります。牧師の暖かい静かな語り口調。井上さんを送る言葉は故人の魂を慰めるには十分でした。

パイプオルガンとピアノの演奏で、賛美歌を3曲歌いました。井上さん、お別れです、安らかに眠りください。あちらには崇江さん、古澤さん、石渡さんがいます。天国ワイズメンズクラブでも作って待っていてください、少し遅れて私も行きます。その時には仲間に入れてくださいね。

今日は仙台からゆかりの仲間たちも大勢集まって、列席してくれています。列席者の多さが、あなたの生前の活躍を物語っています。本当に惜しいあなたを失いました。



井上優子さん

優子さんをはじめ、ご家族は気丈にふるまいたいへんりっぱでした。多くの家族を残した功績は、語り継ぐに不足はありません。年の多い順番に旅立つのは、残された家族にはあきらめやすいものです。天国で見守ってください、ご家族も私たちも精いっぱい生き続けます。いつか再開しましょう。今日はこれでお別れです。

おやすみなさい



ワイズメンズクラブの仲間、大勢列席してくれました。

編集後記

車いす生活をしている方に、「なぜ車いす生活になったのですか？」言葉で聞けますか。盲目の方に、「目は全く見えないのですか、生まれつきですか」言葉で聞けますか。私は聞けます。健常者が思っているほど障がい者は日常生活には困っていない事を認識しましょう。もちろん困難は存在します、車いすでは越えられない段差はいまだに存在し、盲目の方は、無音状態が恐怖です。障がいの特性を理解して、街で困っている状態に遭遇したらさりげなく「力をお貸ししましょう」と声を掛けてください。段差を越えられない車いすは周囲の方々と力を合わせ、持ち上げます。点字ブロックがない歩道では、自転車がよく道を半分塞

いでいます。手を引くのではなく肩を貸して、言葉で誘導しましょう。我々健常者はいつでもあなた方の味方であるという意識を持って生活しましょう。それが共生になっていきます。

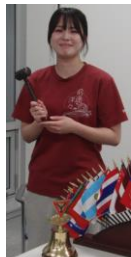
キアゲハの幼虫がいなくなったのは、かなりのショックでした。カナヘビやカラスが狙っていたのは解っていましたが、幼虫は防衛力を発揮して、大きくなっていきました。でも食料不足には勝てなかったのです。スーパーで買ってきたパセリは全く食べませんでした。なにか薬がかかっているのでしょうか、人間には無害でも彼らには致命的な食糧でした。来年からは、君たちがまた来ても十分成虫まで成長できるように、パセリの株を増やしておきます。また来てください。



カーテンに侵入したカマキリ



リーダー点鐘



県立大学さんさ踊りチーム